

平成19年4月の解説（週間天気予報）

【4月の天候状況】

月半ばまでは、低気圧や前線と高気圧が交互に通過してほぼ全国的に天気が数日周期で変化しました。月の後半は北日本では高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。東日本、西日本では、下旬前半までは低気圧や前線の影響を受けて、曇りや雨の日が多く、下旬後半は高気圧に覆われて晴れの日が続きました。南西諸島では前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は北日本の太平洋側と南西諸島で平年より少なく、その他の地方では平年並でした。降水量はほぼ全国的に平年より少なく、西日本を中心に多くの観測点で平年の40%を下回りました。気温はほぼ全国的に平年を下回り、平年より1℃以上低くなつた観測点もありました。

【4月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7日目の平均）は全国平均では例年^(注)と同じ68%でした。関東甲信地方では7ポイント低く、中国、九州北部、九州南部、沖縄地方では4から5ポイント高くなりました。最高気温（2～7日目の平均）の予報誤差は例年に比べてほとんどの地方で小さくなり、特に北海道、東北、東海、北陸、近畿地方で0.5℃から0.9℃小さく、全国平均では0.4℃小さい2.5℃でした。最低気温（2～7日目の平均）の予報誤差も例年に比べて全ての地方で小さくなり、特に近畿、中国、四国地方で例年より0.5℃から0.8℃小さく、全国平均では例年より0.3℃小さい2.0℃でした。

^(注) 例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【4月の週間天気予報から】

4月28日の昼ごろから夕方にかけて関東地方の広い範囲で、強風を伴った激しい雷雨が発生しました。この日の天気を週間天気予報では一貫して「晴れ時々くもり」（下表）と予報していました。これは、日本付近が高気圧に覆われると予想していたためです。

表 「4月28日の東京地方の天気」の予報と実況

「4月28日の東京地方の天気」の予報								28日の実況
予報発表日	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日	東京の日中の天気
天気予報								

図1は4月25日発表の週間天気予報で使用した4月28日(3日後)の予想気圧配置です。東日本、西日本を中心に高気圧に覆われています。実際の地上天気図(図2)と比較すると、全体的な気圧配置は概ね予想と一致していますが、三陸沖の低気圧は予想していません。この低気圧は上空に冷たい空気を伴っていたため、関東地方を通過した28日の午後には大気の状態が不安定となって、昼ごろから夕方にかけて広い範囲で強風を伴った激しい雷雨となりました。大手町(東京都)では、夕方に雷雨となり、最大瞬間風速30.8m/sの強風を観測しました。

上空に冷たい空気が流入して発生する雷雨のように、現象の発生する時間帯や範囲を数日前から予想することが大変難しい現象もあります。週間予報を利用する際には、念のため最新の予報で確認するようお願いします。

【6月の週間天気予報の利用にあたって】

6月は梅雨前線が本州付近に数日以上停滞することが多く、梅雨前線付近の地方では曇りや雨の日が続きしばしば大雨が降ります。梅雨前線が少し北上すると、太平洋高気圧に覆われて蒸し暑い夏の天気になり、少し南下するとオホーツク海高気圧からの冷たい北東の風が吹いて、太平洋側の地方を中心に梅雨寒で曇りがちの天気になります。

このように梅雨前線の位置のわずかな違いで天気が大きく変わりますが、梅雨前線の南北の変動の予想は、日本全体を覆うような大きさの低気圧の移動の予想に比べて大変難しいものです。梅雨に週間天気予報を利用する際には、最新の天気予報で確認するようお願いします。

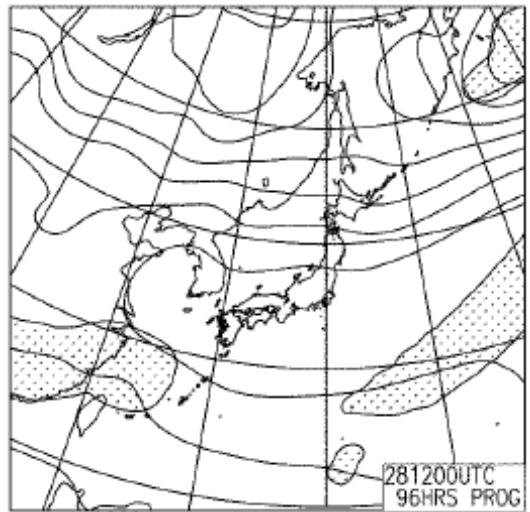


図1 4月25日の予報で使用した
4月28日21時の予想気圧配置

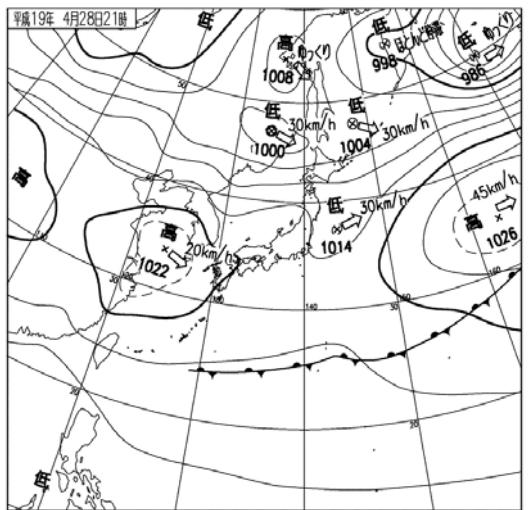


図2 4月28日21時の地上天気図